

誰もが自由に利用できる「映像ライブラリー」を構築し 地域の観光活性化と国際交流を図る。

一般社団法人 映像通信は関西地区の景観や四季の風景、伝統催事等の映像をハイビジョンカメラで撮影した「関西映像ライブラリー」を構築した。これらの映像を著作権フリーの形で公開することで、関西の観光事業活性化をはじめ、国際交流に貢献できると同法人では考えている。

関西各地の映像を収録し、著作権フリーで公開する。

テレビなどで「資料映像」というのを目にすることがある。これらの映像はテレビ局や制作会社に著作権があり有料で貸し出している。わずかに10秒ほどでも安価とは言えず、使い道にも厳しい規定が設けられているため、簡単に使用することはできない。

一般社団法人 映像通信の「関西映像ライブラリー」は誰もが自由に使える著作権フリーの映像として公開する

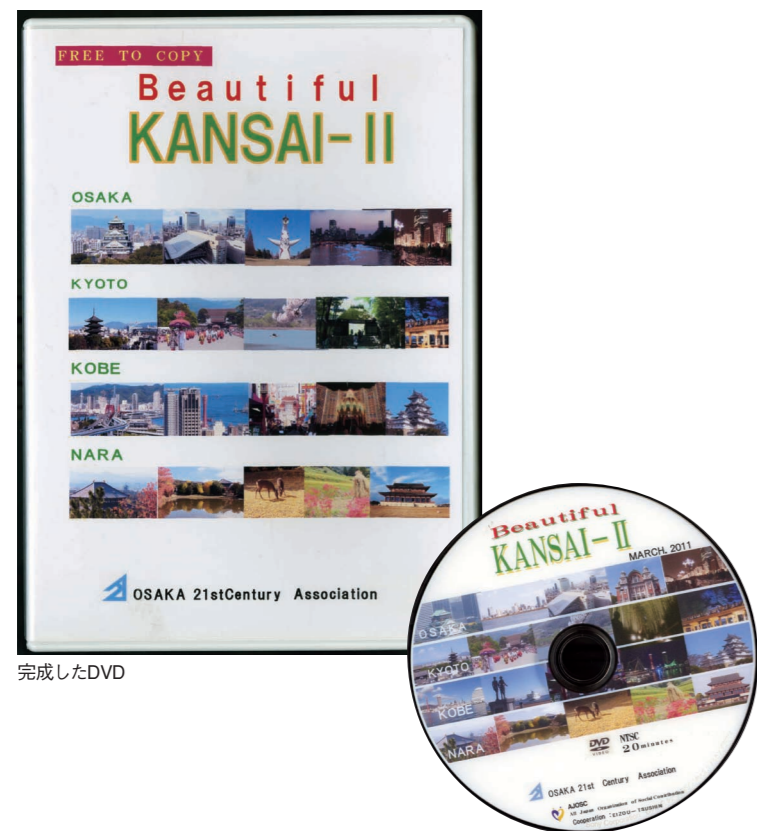
ものである。同法人の代表理事である橋山英二さんは、この事業の意義について次のように話す。

「大きく分けて2つの目的があります。1つは今の関西の美しさや活気、人々の様子を高画質のハイビジョン映像で記録保存すること。そして2つ目は映像を観光や商業のPRをはじめ、国際交流などに自由に活用してもらうことです」

撮影と編集は、橋山さんが全て行っている。橋山さんは、永年、NHKの報道現場でニュースやドキュメンタリーのカメラマンなどを務めた人だけに撮影はプロ中のプロである。また、「新日本紀行」などのドキュメンタリーを経験しているので、関西各地の『旬の撮りどころ』も熟知している。

AJOSCの助成を受けた橋山さんは、さっそく1年間、約100日間をかけて、関西のさまざまな地域をめぐり、四季の風景や、行事などを撮り貯めた。数年前までは1千万

関西地区の美しい映像が収録されている



完成したDVD



円程したハイビジョンカメラや編集機は、技術革新により、安価で高機能なものが普及し、さらにパソコンでの編集が可能なソフトの開発など、ハイビジョン映像は身近なものになってきてそう。著作権は同法人にあるので、無料で提供しても問題はない。現在、領事館や文化交流会、留学生など外国人向けにDVDで映像が配布されている。

震災後の観光復興策としても ライブラリーは有効になる。

橋山さんたちの映像はさっそく日の目を見ることになった。関西国際空港の到着ロビーにある16面の「ウエルカムビジョン」で海外からの観光客向けに、関西各地の映像を7分間にまとめた「Welcome to KANSAI」が上映されている。四季毎のバージョンがあり、テロップは英語、中国語、韓国語が入れている。また、大阪、京都、神戸、奈良の美しい映像を環境映像風に編集したDVD「Beautiful KANSAI-II」は海外に配布する他、大阪国際空港のロビーでも上映されている。

しかし、残念ながら各地域を代表するようないくつかの景色や建築物の映像がそこにはない。京都や奈良には歴史的な神社仏閣が数多くあるが、こうした映像の撮影が禁止あるいは有料としているところも多いのだ。

「公開されている社寺などの歴史的建造物が自由に撮影され、その映像がいろいろな所で使用されることは、観光面でのプラスに作用すると思います。例えばイタリアのヴェネツィアなどにも数々の歴史的な建造物がありますが、撮影は自由です。マカオなどもそうです。むしろ、どん



映像を編集する橋山さん

担当者より



日本文化の伝承のため
これからもどうぞ
ご活動ください。

一般社団法人 映像通信
代表理事
橋山英二さん

我々のような地味なボランティア的な活動に目をむけていただき、本当にありがとうございます。ぜひ、こうした活動を続けていただき、日本のさまざまな文化を支えてくださることを心から願っております。

どん撮影してもらって、ホームページなどで紹介していただく方がPRになってよいという考え方でですね。」(橋山さん)

橋山さんたちは撮影許可の交渉を続けているが、なかなか簡単ではない。お祭りですら撮影が有料であることもあるという。橋山さんたちの事業は「都市の景観は誰のものか?」「伝統行事は?」「デジタル時代の映像権利のあり方に一石を投じるものである。

映像は海外の観光客や空港からたいへん好評である。さらには映像の有効性が認識され撮影を依頼されるケースもでてきた。聖徳太子の命日である4月22日に四天王寺で行われる『聖霊会(しょうりょうえ)』の様態を記録することになったのだ。ここで催される舞楽は重要無形文化財である。他にもいくつかの問い合わせがきており、無料で自由に使える映像ライブラリーという発想は広がって行くのは間違いないだろう。

「今回撮影してみて、既に知っていると思っていた風景でも、時間や天候によってもっと美しく、感動するシーンのあることが分かりました。まだまだ記録すべき映像があります。発注されて撮影するのではなく、自主的に撮影を続けていきたい。」

東日本大震災の影響で、国内の観光事業は大打撃を受けている。その復興の手段としても、こうしたライブラリー活用が有効に役立つはずだと橋山さんたちは考えている。